

1月のアルミレポートおよび2月の見通し(下)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予測レンジ

LME	現物後場買い 1400-1550ドル	↑ 弱い
	スクラップ -5から-10円(前月最終価格より)	↑ 弱い
	為替 117-123円(一か月間)	↑ 円高

※平成28年2月17日付の記事の続きです。

【アルミニウム2次合金

同合金地金等生産実績】

前年比-6.1%の6万2157t。15カ月連続マイナス

出荷は-6%の6万4058t 22カ月連続マイナス。

内 出荷先

鑄物 -6% ダイカスト -6% 板 -1.4%

押出 -3.4% 鉄鋼-19.7%

合金地金メーカー +0.6%

【アルミ圧延・押出品生産数】 -0.2% 10カ月連続マイナス 16万454t

板類

(1) 缶材 433,696^t (3.1%)

ビール系飲料の出荷量が落ち込む中(現行統計が開始された1992年以降で最低)、ボトル缶の好調及び一部コーヒー缶のアルミ化による需要増により、3年連続でプラス。

(2) 自動車 150,761^t (3.5%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数は減少するも(1-11月の軽を除く乗用車生産台数:5,781千台、前年同月比:▲2.3%)、アルミパネル材を採用する主に高級乗用車の輸出増加、トラック架台の需要増、新型プリウスの販売好調により、2年連続でプラス。

(3) 輸出 229,895^t (14.8%)

海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転により、2年連続でプラス。

押出類

(1) 建設: 459,169^t (▲9.6%)

新設住宅着工戸数は増加しているが(1-11月の着工戸数:833,847戸、前年同月比:+2.2%)、建設全体としては3年連続でマイナス。

(2) 自動車 132,216^t (▲2.3%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数の減少により、マイナスに転ず。

【輸出】

アルミ新地金が前年比-48.6%の90t

二次合金が+28.9%の1615t

スクラップが+11.2%の7935t

アルミ缶が前月比+6.2%の4264t

【輸入】

アルミ新地金が前年比-14.2%の10万3151t

二次合金が-13.2%の8万7431t

スクラップが-46%の750t

合金スクラップが-44.9%の3608t

【見通し】

・自動車は生産が2ヵ月ぶり減少の-2.3%。1月の

国内販売台数が前年比+0.2%

生産が2ヵ月振りマイナス、販売が4ヵ月連続プラス。

生産が再び減少となった。販売の方が微増ではあるが4ヵ月連続プラスに。

ただ増加の幅が縮小しており注視が必要。

・住宅着工の動向については、全体として平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数 主力の押出が減少。板類、輸出共にプラスに転じ減容幅は縮小した。

・アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績自動車生産の減少を受けて減少、さらに鉄鋼系への出荷も大幅に減少。自動車販売増だけが唯一の期待。

・輸出 内需の低迷を受けて増加。

・輸入 内需の低迷や円高から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、住宅着工や自動車生産の減少に伴う発生難はあるものの、格安の中国塊の輸入品もあり今月内は需給は緩いのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、春節明けの中国動向と原油の生産調整問題に左右される。

春節明けの中国の動向に関しては、上海株がデッドラインと言われた3500を大きく下回る2700付近で推移しているにも関わらず、有効な対策を未だ打ててないのが現状。

新たな対策が出る可能もとぼしく良くて現状維持ではないか?

原油減産問題に関しては、採算ラインと言われる40ドルを大きく下回る30ドル近辺で推移しておりOPEC非OPECロシアなどとの減産合意が取り下げられるも、サウジとイランの国交断絶が修復する見込みもなく、今月中の減産合意はないのではないかと?

それらを踏まえた2月のアルミ価格は、中国が新たな株価対策などを行い、原油の減産合意が行われた場合、1月高値の一段高1550ドルを予測。いずれかの場合は1450ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合1月もう一段安値の1400ドル。

為替は、ECBも追加金融緩和に関しては日本ほ

ど積極的でない事。人民元流出に関して案の対策もないことが考えられる。
それらを踏まえ予測は
上値はECBが追加禁輸緩和をした場合新興国からの資金吸い上げに伴う対ユーロでの円高や人民

元の流出加速からの117円台を予測。下値は金融緩和を行わず、人民元流出対策を行った場合122円台。
メーカースクラップ購入価格は-5から-10円と予測している。

国内サッシ大手3社 2社営業減益に—アジアでの需要不振

サッシ大手3社の2015年4~12月連結決算が出そ
ろい、3社の内2社が営業減益であった。

サッシ製品の販売は、国内では樹脂製の断熱窓など単価の高いサッシ製品が好調であったが、海外ではアジアでの需要不振が各メーカーの業績に影響を与えた。サッシ以外のエクステリアやアルミ型材・加工品は国内でも厳しい状況にある。アルミ地金などの原材料や運搬費の急激な変動が、各社の上期業績を下げ、下期もその影響が残る形となった。

LIXILハウジングテクノロジー (LHT) の4~12月連結営業利益は、前年同期比11.2%増の324億2100万円であったが、LIXILグループのカーテンウォール事業の営業損益は49億2800万円の赤字(前年同期20億4400万円の赤字)は含まれない。それに対し、YKKグループの海外子会社も含めたAP事業は10.5%減となり、不二サッシも66.2%減であった。

サッシ関連を取り巻く環境として、国内では新築戸建て向けのサッシ需要は十分回復できていないが、防火窓や高断熱窓などの単価の高い製品は売れている。海外では、経済状況が堅調に推移しているアメリカでは、住宅やビル向けの製品の需要が増えている。景気減速気味の中国や、その影

響を受けたシンガポールなどアジアでは、複数の大型物件の工期が伸び、余剰コストが発生し業績を圧迫した。

サッシ以外では、国内で建築材料や家電・産業機械の部品などに使用されるアルミ型材の需要が伸びていない。昨年10月のアルミ地金の大幅下落に対しての買い控えもあり、需要減の要因となっている。エクステリアも前期は消費税増税前の駆け込み需要などで好調だったが、今期は需要を引き上げる要因が乏しく、前期に届いていない。

各社とも上期からのアルミ地金の急激な変動が影響し、業績に大きな影響を与えた。

国内サッシ大手3社の連結決算 4~12期

(単位:100万円、▼は減、または赤字)

上段は4~12月実績・中段は前年同期・下段は通期予想

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
LIXILグループ	441,042	32,421	—	—
(ハウジング事業)	447,607	29,163	—	—
YKKグループ	306,700	19,800	—	—
(AP事業)	300,200	22,100	—	—
不二サッシ	61,372	348	▼6	▼255
	62,639	1,032	816	342
	102,000	2,900	2,600	1,450

※LIXILグループ(ハウジングテクノロジー)の売上高は社内の他のセグメントへの売り上げなど含む。伊カーテンウォールメーカー、ペルマスティリーザの業績は含まない。

亜鉛建値は6,000円引き下げの23万8,000円 月内建値平均は24万3,300円。

三井金属鉱業は17日、電気亜鉛建値を6,000円引き下げの23万8,000円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は24万3,300円。

17日入電のLME亜鉛相場のセツルメントが1679.00ドル、同日発表のTTSレート115.29円で換算した採算価格は19万3,500円となり、建値と採算価格から見た諸掛かりは4万4,500円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り。(単位キロ当たり円、かっこ内は改定日)

- ・2015年
9月=268(1) 262(7) 268(10) 262(15) 244(25)
平均260.4
10月=250(1) 247(7) 271(13) 265(16) 259(21)
平均258.1
11月=253(2) 250(6) 244(11) 238(18)
平均243.8
12月=241(1) 235(4) 232(17)
平均234.8
- ・2016年

1月=241(4) 229(7) 217(13) 220(19) 226(22)

平均226.0

2月=247(1) 250(4) 244(12) 238(17)

平均243.3

社会の発展とその未来に
テクノロジーで対応する

KYOWA

地球にも、人にもやさしい

KYOWA のエコ電線

好評発売中

タイシガイセンEM 600V EEF/F

<http://www.kyowadensen.co.jp/>

 **協和電線工業株式会社**
KYOWA ELECTRIC WIRE INDUSTRIES CO., LTD.
〒581-0026 八尾市曙町1丁目7番
TEL(0729)91-0818(代)、FAX(0729)91-4470